

## 農業水利施設アセットマネジメントの計画的な推進について

- 1) 本県の農業水利施設の多くは、整備後30年が経過し老朽化が進行。
- 2) 施設の機能診断によって劣化の進行状況を把握し、予防的かつ効果的に補強・更新を行うことで施設の長寿命化を図る取組(アセットマネジメント)を推進。  
 (予防保全へ対策を移行させることで、約20%のコスト削減)
- 3) 関係者で構成する「滋賀県アセットマネジメント推進協議会」で策定した中長期計画に基づき、関係者が一体となって取組を実施。
- 4) 第1期中長期計画が3年毎の見直し時期を迎えたため、今回、第2期中長期計画を策定。

### 1. 現状

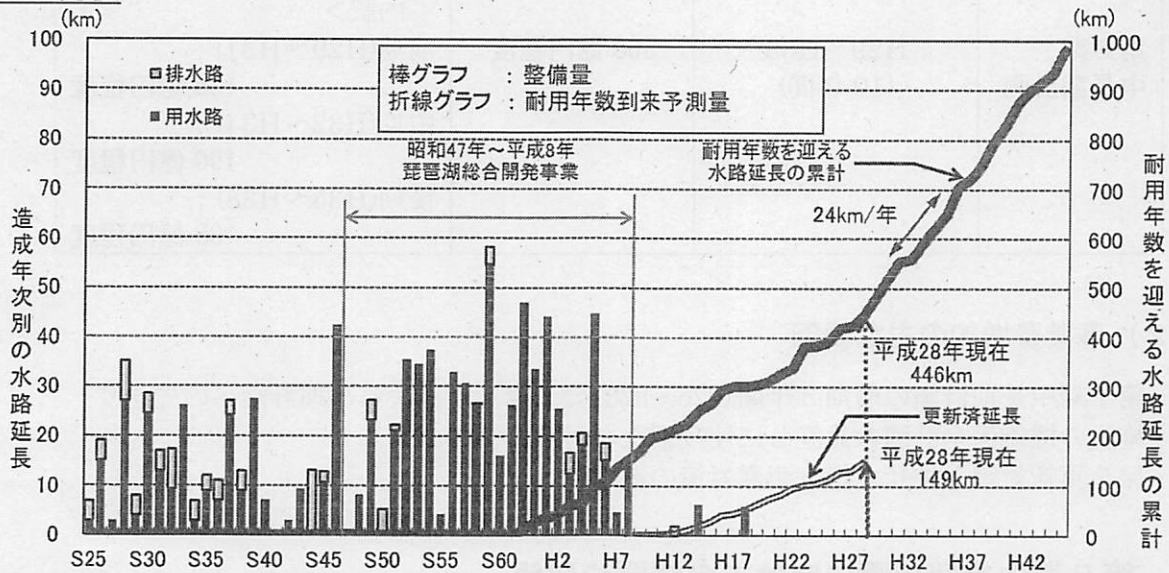


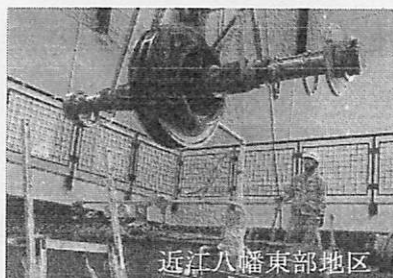
図: 幹線水路の整備延長と標準的な耐用年数が到来する延長の推移(県全体)

### 2. 第1期中長期計画(前期H26~H28)の取組結果

#### (1) 効率的・効果的な保全更新対策の取組

・基幹水利施設の機能保全計画の策定等を、3年間で167施設において実施。その結果、計画策定済みの施設は累積で425施設となり、全471施設の90%を超過。同計画に基づき、保全更新対策を実施。

##### ■揚水機施設の保全更新



##### ■パイプラインの更新



##### ■水路の内面補修



#### (2) 琵琶湖等の環境に配慮した対策の取組

- ・基幹水利施設を管理している31土地改良区の約半数で反復利用や循環灌漑を実施。
- ・水管理システムや電気設備の更新に伴い、細やかな分水操作による水利用・水管理の省力化や節水・節電を推進。

#### (3) 地域ぐるみの保全活動や維持管理体制づくりの取組

- ・末端水利施設の長寿命化のため、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」において、3年間で約42km(見込み)の水路を補修・更新。
- ・農業水利施設の管理体制づくりについて、各土地改良区が自治体だけでなく消防団や民間企業とも協定を締結し、より大きい枠組みの中で維持管理活動を実施。

### 3. 第2期中長期計画の概要

#### (1) 第1期計画と第2期計画の事業費比較

	計画期間	事業費	備考
第1期中長期計画	H26～H35 (10年間)	490億円程度	前期3年(H26～H28)の 実績/計画の比較  123億円/140億円 (約88%)
第2期中長期計画	H29～H38 (10年間)	560億円程度	<内訳> 前期(H29～H31): 185億円程度 中期(H32～H34): 190億円程度 後期(H35～H38): 185億円程度

#### (2) 事業費増加の主な要因

- ・第1期中長期計画の前期3年間(H26～H28)の予算不足による次期計画への先送り
- ・施設の機能保全計画の見直しに伴う新たな対策の追加
- ・保全更新対策と併せて行う耐震対策の追加

### 4. 第2期中長期計画に向けての課題や取組

#### (1) 機能診断・機能保全計画の充実

- ・更に機能診断を進め、機能保全計画が策定されていない施設や策定後に時間が経過している施設について、有識者の意見を取り入れつつ、機能保全計画の策定等を推進。

#### (2) 予算の確保

- ・中長期計画に基づき計画的に対策を進めるため、関係者が協力して引き続き予算の確保に努める必要。

#### (3) 管理体制づくり

- ・地震等の災害や、農業水利施設の老朽化に起因した漏水事故に備え、復旧資材の備蓄・調達計画を策定する等、リスク管理の体制づくりを推進。